

音楽科学習指導案

授業 I

2年2組 26名 指導者 榮留 由華

本授業は、以下の検証を行うものである。

三つの学習課程の中で、「音楽的な見方・考え方」を働かせるために、学習活動や教師の手立てを工夫することは、2拍子と3拍子の違いや特徴を感じ取りながら聴くための手立てとして、有効であったか。

- 1 題材 はくのみとまりをかんじとろう
教材 「はしの上で」久野静夫 日本語詞／フランス民謡
「トルコ行進曲」ベートーベン 作曲
「たぬきのたいこ」阪田寛夫 日本語詞／チェコ民謡／編曲者不明
「かっこう」小林純一 日本語詞／ドイツ民謡
「メヌエット」ペツォルト 作曲（本時主教材）

〔共通事項〕 拍の流れ

2 目標

音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり聴いたりして、拍のみとまりや拍子の違いを感じ取ることができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 拍のみとまりを感じ取って、手遊びをして歌ったり、音色や演奏の仕方に気を付けて演奏したりしている。 ○ 拍のみとまりを聴き取り、音楽に合わせて身体表現をしながら、楽曲の楽しさや演奏のよさを感じ取りながら聴いている。	○ 拍のみとまりを聴き取り、拍子の違いをつかんで手遊びの仕方を工夫し、どのように音楽表現するかについて自分の考えをもっている。	○ 拍子の違いや拍のみとまりから生み出される楽曲の気分を感じ取って、身体表現をしながら、歌ったり聴いたりする学習に進んで取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 題材について

本題材では、音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり聴いたりする活動を通して、2拍子と3拍子の違いや特徴を感じ取ることができることをねらいとしている。

「はしの上で」は、拍の流れにのる楽しさを十分に味わうことができる楽曲である。手遊びや体を動かしながら歌うことにより、2拍子の拍の流れを感じ取ることができるようにしたい。

「トルコ行進曲」は、始めは同じ旋律のリズムが繰り返されているが、途中から今までのリズムと合わない音楽が現れることを生かして、音楽に合うリズムを感じ取ることができる楽曲である。フレーズごとのリズムは一定であっても、強弱が変化したら、手拍子もそれに合わせて音楽表現の仕方を変えるなど、楽曲の気分に合った打ち方を工夫させたい。

「たぬきのたいこ」は、歌いながら拍打ちをしたり、歌詞に合わせて手拍子をしたりすることで、3拍子を感じることができる楽曲である。伴奏をよく聴いて、手遊びをしながら歌うことで、3拍子の躍動感を感じ取ることができるようにしたい。

「かっこう」は、旋律がド～ソの5音で構成されており、無理なく階名暗唱や楽器演奏などの活動を行うことができる楽曲である。各段の最初の小節が、それぞれ違う旋律のリズムで構成されているので、いろいろなリズムの3拍子を感じ取らせながら演奏させたい。

「メヌエット」は、音楽に合わせてリズム打ちをしたり、体を動かしたりする活動を通して、感じたことや気付いたことを発表し合うことで、3拍子の特徴を感じ取ることができる楽曲である。「トルコ行進曲」と比較鑑賞することで、2拍子と3拍子の違いをより明確に感じ取らせたい。

このような楽曲を通して、これまでに身に付けてきた拍の流れに対する感覚をより一層高めるとともに、拍子感を養うことは、2学期に学習する題材「4. ひょうしをかんじてリズムをうとう」にも生かすことができる。

(2) 子供について

本学級の子供たちは、音楽科の学習に対する関心・意欲が高く、進んで表現や鑑賞の様々な活動に取り組む子供が多い。そして、表情豊かにのびのびと歌ったり、曲に合わせて身体表現をしながら聴いたりすることができる子供が増えてきた。しかし、拍子の違いや特徴を感じ取りながら、歌ったり聴いたりするところまでは至っていない子供もいる。そこで本題材では、音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり聴いたりする活動を通して、2拍子と3拍子の違いや特徴を感じ取ることができるようにする。

(3) 指導について

本題材では、これまでに身に付けてきた拍の流れに対する感覚をより一層高めるとともに、拍子感を養うことができるようにしたい。そのために、鑑賞領域と表現領域を関連付けて、効果的な学習が展開できるようにする。鑑賞領域では、手遊びをしたり体を動かしたりしながら拍のまとまりを聴き取り、「感じたこと」と「気付いたこと」を結び付けながら、「音楽的な見方・考え方」を働かせるようにする。また表現領域では、2拍子と3拍子の拍のまとまりを感じ取りながら、「行進しながら堂々と歌いたい。」「踊りながらきれいに歌いたい。」という思いをもって音楽表現することを大切にしたい。そのために、様々な方法で拍のまとまりを感じたり、挿絵からイメージを膨らませたりしながら、感性を生かして学習できるようにする。そして、友達と思いを交流させ、何度も歌ったり聴いたりする活動を通して、思いを豊かに表現する力を付けさせたい。

5 指導計画（総時数9時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

次	主な学習活動【評価規準】	重点的な 共通事項	時間	基盤となる資質・能力		
				言語	情報	問題
1	はしの上で 1 2拍子の拍のまとまりを感じながら、音楽に合わせて一人で手遊びをしたり、手遊びをしながら歌ったりする。 【態：2拍子の拍のまとまりを感じ取って、手遊びをしながら歌う学習に楽しんで取り組もうとしている。】	旋律 拍の流れ	1		又	
	2 2拍子の拍のまとまりを感じながら、変化を付けて、手遊びをしながら歌う。 【思：2拍子の拍のまとまりを聴き取り、2拍子の感じをつかんで手遊びの仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えをもっている。】	リズム 拍の流れ	1			ホ
2	トルコこうしんきょく 3 旋律の変化とともに強弱も変化することに気付きながら、2拍子の拍のまとまりを楽しく感じ取って聴く。 【態：手拍子を打ったり体を動かしたりして、2拍子の拍のまとまりや楽曲の気分を感じ取って、聴く学習に進んで取り組もうとしている。】	旋律 拍の流れ	1	ク		
	4 2拍子の拍のまとまりを感じ取りながら、手拍子を打って音楽を聴き、楽曲全体を楽しんで聴く。 【知：拍子の感じや強弱の変化を感じ取って、音楽に合わせて体を動かしながら、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。】	リズム 旋律 強弱 拍の流れ	1		ネ	
3	たぬきのたいこ 5 2拍子との違いについて気付き、音楽に合わせて歌う。 【態：3拍子を感じながら、歌う学習に楽しんで取り組もうとしている。】	リズム 拍の流れ	1		又	
	6 3拍子の拍のまとまりを感じ取り、手遊び等をしながら歌う。 【知：3拍子の拍のまとまりを感じ取り、音楽に合う手遊び等をし、楽曲の気分にあった表現で、歌ったり演奏したりしている。】	リズム 拍の流れ	1			ホ
4	かつこう 7 歌詞に注目して場面の様子を想像したり、手遊びをしながら歌ったりする。 【態：3拍子の拍のまとまりを感じ取って、手遊びをしながら歌う学習に楽しんで取り組もうとしている。】	旋律 拍の流れ	1		又	
	8 3拍子の拍のまとまりを感じ取って演奏したり、情景に合うような演奏の仕方を工夫したりする。 【知：拍のまとまりを感じ取って、音色や演奏の仕方に気を付けて、楽曲の気分にあった表現で演奏している。】	旋律 音色 リズム 拍の流れ	1			ホ
5	メヌエット 9 2拍子と3拍子の違いに気付き、3拍子のよさや面白さを感じ取りながら、聴く。 【知：2拍子や3拍子の拍のまとまりを聴き取り、それぞれの拍子を感じ取って、音楽に合わせて体を動かしながら、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。】	旋律 拍の流れ	1 (補)		ネ	

6 本 時 (9/9)

(1) 目 標

2拍子と3拍子の違いに気付き、3拍子のよさや面白さを感じ取りながら、聴くことができるようにする。

(2) 評価規準

2拍子や3拍子の拍のまとまりを聴き取り、それぞれの拍子を感じ取って、音楽に合わせて体を動かしながら、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。 【知識・技能】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程では、手遊びをしたり体を動かしたりしながら歌うことで、楽しい雰囲気の中で進んで音楽に取り組もうとする意欲を引き出すようにする。追求する・磨き合う過程では、「トルコ行進曲」と「メヌエット」を比較しながら2拍子と3拍子の違いや特徴を感じ取らせ、他の楽曲の拍の流れについても考える活動を取り入れることで、発展して拍子感を養うことができるようにする。振り返る過程では、拍の流れについて分かったことなどを振り返らせることで、楽曲に対する思いをもち、本時の達成感を味わわせたい。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主 な 学 習 活 動	指 導 の 手 立 て
つかむ		1 リズム遊びをしながら歌う。(音タイム) - この曲は、何拍子だったかな。 「たぬきのたいこ」は3拍子だよ。 「トルコ行進曲」は2拍子だな。	○ 「音タイム」で前時までの学習を想起するリズム遊びをしながら歌うことで、楽しい雰囲気の中で、拍の流れについての興味を促すことができるようにする。
見通す	10	2 「メヌエット」の冒頭部分を聴く。 - 踊り出したくなる音楽だね。 - ゆったりした音楽だな。 「トルコ行進曲」とは何か違うぞ。 3 学習課題を確かめる。 はくのまとまりにきをつけて、「メヌエット」をきこう。	① 「トルコ行進曲」で学習したことを掲示しておくことで、2拍子の音楽と比較して「メヌエット」を聴き、3拍子の特徴や2拍子との違いを捉えることができるようにする。 ○ 「感じたこと」や「気付いたこと」、「手拍子の仕方」、「指揮の形」「旋律の流れ」について整理して板書することで、3拍子の特徴を分かりやすく捉えることができるようにする。
追求する	10	4 「メヌエット」を最後まで聴いて、「感じたこと」や「気付いたこと」を発表する。 - なめらかなゆっくりした音楽だな。 「1・2・3」の拍の流れに合うから、3拍子かもしれないぞ。 - 手拍子をして、確かめたいな。	○ 1年生の時に学習した曲に合わせて、手拍子をしたり体を動かしたりしながら、拍の流れを感じ取らせることで、様々な楽曲の拍の流れへの意欲をもたせるようにする。
磨き合う	20	5 体を動かしたり、指揮をしたりしながら、2拍子と3拍子の音楽を聴き比べる。 「1・2」と「1・2・3」で拍の流れがこんなに違うんだな。 2拍子は力強く行進するみたいで、3拍子はゆるやかに踊るみたいだな。 1年生の時に聴いた「おどるこねこ」は3拍子だ。 6 他の作曲者の「メヌエット」を聴く。 - 作曲者は違うのに、全部「メヌエット」っていう題名なんだね。 3拍子の音楽を聴いていると、さわやかな気持ちになるな。	○ 「どうして、○拍子だと思ったのかな。」等を発問し、理由を説明させることで、拍の流れについて根拠をもって理解することができるようにする。 ※ 2拍子や3拍子の拍のまとまりを聴き取り、それぞれの拍子を感じ取って、音楽に合わせて体を動かしながら、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。(演奏聴取) 【知識・技能】
振り返る	5	7 本時の学習を振り返る。 2拍子や3拍子の違いが、よく分かったぞ。 - 体を動かしながら音楽を聴くのは、楽しいな。	○ 他の作曲者の「メヌエット」を聴かせることで、より一層3拍子の楽曲のよさを感じることができるようにする。 ○ 学習の振り返りの時間を設定することで、自らの成長や変容に気付き、本時の達成感を味わうことができるようにする。

音楽科学習指導略案

5年1組 34名 指導者 伊東 奈央

「思いや意図をもつこと」と「音楽を体験すること」を往還する活動は、子供の多様な気付きを生かしながら、一人一人の意思で学級全体の音楽表現を変容させる手立てとして有効であったか。

- 1 題 材 ゆたかな歌声をひびかせよう
 教 材 「すてきな一歩」 長井理佳 作詞／長谷部匡俊 作曲
 「こいのぼり」 文部省唱歌
 「ビリーブ」 杉本竜一 作詞・作曲（本時主教材）
 [共通事項] 旋律、強弱、変化

- 2 指導計画（総時数5時間） ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

次	主な学習活動【評価規準】	囀	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
1	<u>すてきな一歩</u> 1 歌詞の内容や旋律の音の動き、強弱に気を付けて、二部合唱をする。 【態：ハ長調の楽譜を見たり、歌詞の内容を理解したりして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。】	1			ホ
	2 伴奏を聴き、曲想の変化を感じ取りながら、音楽表現の工夫をする。 【思：伴奏の変化を聴き取り、旋律と伴奏のかかわりが生み出す良さを感じ取りながら、曲想を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。】	1	キ		
2	<u>こいのぼり</u> 3 歌詞の内容を理解し、背景を想像しながら、リズムや強弱、曲の山を生かした歌い方を工夫し、明るく響きのある声で歌う。 【知：リズムや強弱を生かした曲想にふさわしい音楽表現で歌っている。】	1		テ	
3	<u>ビリーブ</u> 4 歌詞の内容や旋律の音の動き、強弱に気を付けて、二部合唱をする。 【態：歌詞の内容を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。】	1	ス		
	5 どこをどのように歌いたいか、自分の「思いや願い」をもち、自分の思いが歌声で聴く人に伝わるように工夫し、音楽表現を高める。 【思：歌詞の内容や強弱記号を基に、音楽表現を工夫している。】	1 (補)		ネ	

3 本 時 (5/5)

- (1) 目 標
教材曲をどのように歌いたいか自分の「思いや願い」をもち、音楽表現を工夫することができる。
- (2) 評価規準
歌詞の内容や強弱記号を基に、音楽表現を工夫している。 【思考・判断・表現】
- (3) 指導に当たって

前時は、8～9人1組のグループで「範唱とそっくりに歌えるようにする」という活動を行っている。子供は、「そっくりにするには、どうしたらよいか」という問題意識で、繰り返し範唱を聴いたり、歌い方を何度も試したりした。

本時では、各グループが共通している部分を取り上げる。例えば、「どのグループもBの冒頭を優しい音楽表現で歌っているという点において共通しているのは、どうしてだろう」と問いかけ、自分の言葉で説明したり、歌って試したりすることで、歌詞に表されている感情とfとを関係付けられるようにする。

また、Bのみならず、他の場所でも感情の変化に目を向けられるように、「他にも気持ちを表している強弱記号はありますか。」とたずねたり、歌って試したりするようにする。そうすることで、強弱記号は単に音の強弱を表しているのではなく、感情の変化を表しているものなのだという知識を得られるようにする。このように、共通の学びを経るような活動の流れを設定し、全員が同じ部分に対して「この部分は、こうやって歌うぞ。」という明確な意思を働かせられるようにすることで、音楽表現の効果が大きくなるようにする。

終末には、再度、学級全員で歌う際に、強弱の差が前よりはっきりし、強弱記号がついている部分の言葉の発音が明瞭かつ丁寧になったことなど、音楽表現を価値付けるようにする。そうすることで、全ての子供が自分たちの音楽表現のよさを実感し、学んだことに価値を見出すことができるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	10	1 音楽遊びをする。 〔・ リズムを合わせるのが得意になってきたぞ。みんなと揃えると楽しいな。〕 2 「ビリーブ」を合唱し、よりよい音楽表現の工夫について話し合う。 〔・ 僕たちの班の歌い方で全員一斉に使うと、きっといい歌になるんだろうな。〕 3 学習課題を確かめる。 歌詞や強弱記号をもとに、合唱を練り上げよう。	○ リズム遊びや、交互唱などの音楽遊びを行うことで、心や体のウォーミングアップを図ることができるようにする。 ○ 例えば、「お腹を伸ばして、息を深く吸い込みやすくしているか。」や「まゆげを上げて目を開き、声が響きやすくなっているか。」「口をたくさん動かし、言葉が明瞭になっているか。」などのポイントを踏まえて、歌うようにすることで、子供の歌唱について、客観的に、そして具体的に価値付けできるようにする。
追求する・磨き合う	25	4 各グループで歌唱発表する。 〔・ ○班は、「I believe in future」という歌詞に着目して、歌い方を工夫しているところが、面白いと思いました。 ・ △班は、C（サビ）の部分に着目して、歌い方を工夫しているところがいいなと思いました。〕 5 各グループの共通点を見付ける。 〔・ Bの部分は、fが付いているのに、どのグループも優しく歌っていました。 ・ 範唱はどうしてBの部分を優しく歌っていたのだろう。 ・ 世界中の人々の幸せを願っているから、優しく歌った方がいいね。〕 6 他にも気持ちを表している強弱記号を見付ける。 〔・ Aの部分は他のところよりも弱く歌うように記号がついているね。 ・ Aは、傷ついている友達や、泣き出しそうな友達を、優しく励ます歌詞だからだね。 ・ Cは、傷ついている友達に、「これから新しい未来が待っているよ！！その未来を信じて前向きにいこう！！」と心の扉を開くようにfで歌いたい。〕	○ 前時に各グループで「範唱とそっくりに歌えるようにするにはどうしたらよいか」という課題意識で取り組んだことを生かして、歌唱発表をする。 ○ Bの冒頭部分は楽譜にfと示されているが、全てのグループが優しい表現で歌っていることについてなど、グループで共通しているところを指摘して話し合ったり、歌って試したりする。そうすることで、歌詞に表されている感情の変化について目を向けることができるようにする。 ○ 強弱記号が単に音の強弱を表しているのではなく、感情の変化を表しているものだという知識を獲得できるようにする。そのために、他にも気持ちを表している強弱記号はないかたずねて話し合ったり、歌って試したりして、記号の付いている部分の歌詞を見直すようにする。 ④ みんなで学ぶ価値があると思う瞬間に活動を中断させ、発問することで、クラス全員で同じ話題について意見し合って、個々の思考力や判断力、表現力が磨かれるようにする。 ※ 歌詞と強弱記号との関係を捉え、自分の音楽表現に生かしている。 (発言・シート) 【思考・判断・表現】
振り返る	10	7 学級全員で歌い、振り返る。 〔・ A, B, Cそれぞれの場所に強弱を使って、歌い方を工夫すると、変化が出てきてとても良かった。 ・ 強弱を付けている場所の歌い方がとても丁寧になって、言葉がはっきりと伝えられるようになった。〕 歌詞や強弱記号に隠れている感情を探って歌うといい。	○ 共通の学びを経た後に、同じ部分に対して「ここはこうやって歌うんだ。」という意思を働かせながら全員で歌う活動を設定することで、その部分の音楽表現効果を大きくして、音楽表現のよさを感じやすくする。 ○ 強弱の差が前よりはっきりしていることや、強弱記号が付いている部分の発音が明瞭になっていることなどの事実を挙げて、音楽表現が工夫できたこと価値付ける。このような教師の価値付けにより、「自分たちの力で変えた」という実感をもてるようにする。